

◀ 遠方からも多くのお客さんが訪れ、480の座席がいっぱいになることも（昭和18年頃）。昭和30年代には市内に7つの映画館がありました。



▲現在は12軒の住宅が建っています。



▲プールのオープン時にはオリンピック候補選手も駆け付けたほか、市内企業が定期的に水泳大会を開催していました（昭和30年頃）。

子どもたちがスクリーンに声援を送った

中宮映画劇場

テレビもなく娯楽も少なかった時代、誰もが夢中になったのは映画でした。

中宮映画劇場は昭和18年頃、地元の実業家・徳永和三郎さんが現在の都丘町に建設。近くにあった陸軍の枚方製造所で働く人たちを中心に多くの人でにぎわいました。戦後、映画人気が高まるなか、「笛吹童子」などチャンバラ映画の上映日には子どもたちが行列を作り、スクリーンに向かって大きな声援を送ることも。「お客さんは売店でみかん水とおかきを買って映画を観るのが定番でした」と話すのは、劇場の手伝いをしてきた徳永さんの三男・司さん（63歳）。「父は香里園や岡本町でも劇場を経営していて、重たいフィルムを抱えていつも自転車で走り回っていました。映画でみんなを笑顔にしたかったのでしょうね」。

和三郎さんは昭和28年頃、劇場の北側に25mと子ども用の2つのプールを備えた「徳永遊園プール」も開園。当時、市内には枚方小学校にしかプールがなく、夏休みには大勢の子どもたちが訪れました。劇場のすぐ近くに住んでいた泉太郎さん（68歳）は「ふんどし一丁で泳いでいましたよ。水は地下水だったので冷たかったなあ」と笑顔で話します。

昭和43年に和三郎さんが亡くなり、映画館の経営は他に移りました。プールは46年頃に廃業。映画館があった場所は住宅になりましたが、プールをそのまま再利用した駐車場には今も飛び込み台の番号が残り、当時をしのばせてくれます。

（平成24年4月号）